

第5学年 道徳

第5学年の学習到達目標

- (1) 節度節制を心がけ、希望と勇気を持って努力しようとする態度を養う。
- (2) 互いの信頼と友情を深め、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。
- (3) 自然環境を大切に、生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。
- (4) 集団の中での役割を自覚して責任を果たし、法や社会の約束を守って公共のために役立つように努め、郷土や国を愛し、進んで国際社会に尽くそうとする態度を養う。

第5学年の主な学習内容

学期	主題名	学習のねらい	資料名
前期	希望を持って	困難や失敗にくじけず、希望を持って、自分の夢を実現しようとする意欲を高める。	ベートーベン
	温かい家庭	家族の幸せを考えて、進んで役立つようとする心情を育てる。	お父さんのおべんとう
	友達のために	互いに信頼し合い、その信頼を裏切らない行動をしようとする心情を育てる。	友の命
	困っている人のために	社会に奉仕することの大切さを知り、公共のために役に立つことをする心情を育てる。	世界じゅうの子どもたちとともに
	健康を見直す	自らの健康を見直し、節度を守って元気に生活をしようとする態度を養う。	「百シャアのふたごしまい」きんさん・ぎんさん
	自然を愛する心	自然の偉大さを理解し、自然を愛護する態度を養う。	一ふみ十年
	規律ある行動	自由の大切さを理解し、規律ある行動をしようとする態度を養う。	遠足の子どもたち
	生きることの尊さ	生命のかけがえのなさを自覚して、生きることの尊さを知り、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。	この水のために
	公平な心	だれに対しても偏見を持つことなく、公正公平にし、正義の実現に努めようとする態度を育てる。	えがおが見たい
	美しい真心の尊さ	美しい心に感動する心を育てる。	ひさの星
	同じ地球に生きている	外国の人々や異文化の中に自分と共有される多くの感情や思いがあることにあらためて気づき、それらを大切にしながら国際親善に努めようとする心情を育てる。	同じ空の下で
	夢を実現するために	高い目標を立て、その実現に向けて自分ができることを最後まで全力を尽くしてやり抜こうとする心情を育てる。	いつも全力で
	大切に思う心の美しさ	人間のやさしい心や美しい行為に気づき、素直に感動する心を育てる。	ケヤキの木の下で
	約束や規則の尊重	きまりや規則の意義を理解し、自分たちで決めたまきりは進んで守ろうとする態度を養う。	星野君の二るい打
	あいさつの大切さ	心のこもった礼儀の大切さを知り、時と場に応じて行おうとする態度を養う。	オーストラリアで学んだこと
樹木を大切に	自然のすばらしさを知り、自然や動植物を大切にしようとする態度を養う。	緑よ、よみがえれ	
ほんとうの思いやり	相手の立場や気持ちを考えて、温かく親切にする心情を育てる。	「オトちゃんルール」はあたりまえのルール	
後期	男女が理解し合う心	男女互いに理解し合って友情を育て、協力しようとする心情を育てる。	心のレシーブ
	広い心で	自分のことばかりでなく、広い心で相手の立場や気持ちを受け入れようとする態度を養う。	名医、順庵
	自分に誠実に	正直で陰ひなたなく、常に明るく誠実に行動しようとする態度を養う。	見えた答案
	役割を果たす	自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。	かれてしまったヒマワリ
	困った人の身になって	困っている人を見たときは、その人の身になって考え、親切にしようとする態度を育てる。	くずれ落ちたダンボール箱
	工夫して新しいことを	創意工夫をこらし、積極的に新しい分野を切り開いていこうとする心情を育てる。	ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ

	命があったからこそ	生きることの喜びを感じながら、かけがえのない命を大切に自分自身で守っていきこうとする心情を育てる。	命がないと始まらない
	みんなのために尽くす人	わたしたちの生活が、人々の協力や助け合いで成り立っていることを理解し、尊敬感謝する心情を育てる。	ありがとう上手に
	日本を愛する心	日本の伝統や文化に対する理解を深め、日本人としての自覚と誇りを持って国を愛する態度を養う。	正月料理
後期	公共の広場を大切に	社会の一員としての自覚を持って、進んで公共のために尽くそうとする態度を養う。	駅前広場はだれのもの
	郷土を見直す	郷土の文化と伝統を大切に、先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。	親から子へ、そして孫へと
	責任を果たす	集団の中で進んで責任を果たし、協力しようとする態度を養う。	残った仕事
	わたしの学校	学校に愛情を持ち、学校の一員としての自覚を持って、自分たちの手で学校をよりよくしようとする心情を育てる。	バトンをつなげ
	高い目標に向かって	自分の長所を知り、高い目標を掲げて、常に努力しようとする心情を育てる。	日本のゴッホをめざして
	社会への奉仕	社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役に立つ心情を育てる。	わたしのボランティア体験
	ものを大切にする心	自分の生活を振り返り、ものを活用しているか、むだづかいはないかを反省し、節度を守ろうとする態度を養う。	流行おくれ
	かけがえのない命	自他の生命を尊重し、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。	コースチャ - ぼうやを救え
	心の通い合い	外国の人々や文化について知り、世界の人々と共存していることを理解し、国際親善に努めようとする心情を育てる。	もう一人のお友達

評価の観点・方法

児童の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすように評価していますが、数値などによる評価は行いません。道徳性の評価は、広い視野に立って多面的に長期的視野にたつて、発展的に評価します。また、全体の評価と個人評価に努めています。道徳教育における評価は、教師が児童の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気付ける働きをもつものです。

特色ある学習方法

道徳の時間は、資料とのかかわりや教師と児童及び児童相互のかかわりなどを通して、児童自らが自分自身への問いかけを深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていくようにします。

使用教材等

道徳副読本「道徳 5 希望を持って」を主に使います。この副読本は、どの児童にも親しみやすく、資料にとけこみ、主体的に学習でき、道徳的実践力を育てることができるように配慮してあります。

「心のノート」は、児童が道徳的価値について自ら考えるきっかけとなり、道徳的価値の大切さに気付き、勇気付けられ、発展させていくことができるものです。児童が、自己の生活や体験を振り返り、自らの心に留めておきたいことを記録することもでき、道徳の学習の日常化を目指しています。

留意事項

道徳教育の指導内容が児童の日常生活に生かされるよう、学校や地域の活動、文化施設等の行う催しや学習活動、自然体験活動などに参加する機会をつくらせてあげてみてはいかがでしょうか。豊かな体験を通して、児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られると思います。